

「ともに学び、ともに育つ」 令和2年に共生推進教室がスタート

共生推進教室コーディネーター 西田 直樹

令和2年度より、東住吉高校に共生推進教室が設置され、初年度は3名の生徒が入学しました。

共生推進教室の生徒は、授業や学校行事、部活動など、学校生活のほとんどを東住吉高校の生徒たちとともに過ごしています。

授業には、クラスの皆とともに受けている授業と、共生の生徒だけで受けている授業があります。クラスの授業では、難しい内容やスピードの速い授業もあるので、必要に応じて教員や学習支援員がサポートをしています。共生生徒だけの抽出授業には、国語・数学・英語と自立活動があります。基礎からしっかり学び、時にはゲームなどを取り入れながら学習しています。

また、自立活動の時間では、挨拶や敬語など、生活に必要なマナーを学んだり、化学の実験や書初め、畑づくりなど、様々な実習や体験を行ってきました。



さらに、時間割の都合で1日すべてが自立活動となった日には、共生生徒だけで校外学習に行き、観光だけでなく多くの体験学習をしました。(令和2年度はカップヌードルミュージアムと京都鉄道博物館に行きました)

部活動についても、今年度入学した3名はそれぞれ希望の

クラブに所属し、先輩たちとともに活発に活動をしています。

1週間のうち、火曜日だけは、なにわ高等支援学校へ登校します。なにわ高等支援学校では、卒業後の就労に向けた様々な実習を行っています。1年生では、ビジネスマナー、清掃の基本（自在ほうきや乾式モップ、雑巾の絞り方や拭き方など）、喫茶店での接客を想定した実習、健康の維持や体力づくり、などの授業を受けています。2年生・3年生になると、より実践的な実習を行ったり、クリエイティブ科に所属しファーム（農業）やマシン（工業）の授業なども受ける予定です。就労に向けた実習としては、校内実習や現場実習も行っています。

校内実習は、なにわ高等支援学校を職場に見立て、様々な作業を1日中（約6時間）ひたすらやり続けます。また、先生は職場の上司、同級生は職場の同僚として接し、ビジネスマナーの定着を図ります。これを月曜日から金曜日の5日間やり続けますので、生徒にとっては体力的にも精神的にもかなり厳しいのですが、実習前と実習後と比べると、明らかに成長しているのが分かります。とても良い経験となっています。

現場実習は、会社や商店などで実際に働かせて頂き、現場で働く厳しさや難しさを経験し、今後の学習や実習に役立てるものです。昨年度は1回だけでも現場実習をしたいと思い計画を立てていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染予防の観点から実施することはできませんでした。

今年度は、是非とも複数回現場実習をできればと思っています。緑友会の皆様のなかで、現場実習を受け入れても良いとお考えの方がいらっしゃいましたら、学校へご連絡いただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

昨年度から始まった共生推進教室ですが、多くの方々に支えられ、またご協力をいただいてここまでやってきました。今後、共生の生徒が3学年揃うまでは、共生の生徒は徐々に増えていきます。また、学年が上がるとともに、就労に向けた現場実習等も増えていきます。共生生徒の成長と進路実現に向けて、また「ともに学びともに育つ」教育のさらなる充実のため、なお一層のご理解とご協力をお願いいたします。

ヒガスミニュース チャリティーマラソン開催

コロナ禍で、体育祭は中止、芸術文化科卒業公演は中継配信、文化祭は一般開放見送りと変更を余儀なくされる中で、チャリティー100kmリレーマラソンは11月21日開催されました。

例年のような一般の方の参加はかありませんでしたが、生徒たちがグラウンドを一生懸命走り続けて、マラソンの目的



ikiであるネパールの子どもたちへの支援の心が届けられたように思います。

緑友会では、例年どおりエイドセンターを設置して飲み物や菓子パン、みかん等を提供し、生徒たちに“エール”を送ることができました。

青空の下で、久しぶりにみんなの笑顔が戻ったすがすがしい1日でした。

山口 文子 (18期生)

